

長野県リニア中央新幹線地域振興推進本部会議 次第

日時：令和7年9月19日(金)9:10～9:30

場所：県庁3階特別会議室

1 開 会

2 副本部長あいさつ

3 議 題

これまでの経過とリニアバレー構想推進に向けた今後の取組

- ・ 取り組みの経過について（資料配布） 【資料1-1 ～ 1-6】
- ・ 「リニアを核とした多極分散型国家のモデル」検討ワーキング
チームの設置について 【資料2-1、2-2】

4 その他

長野県リニア駅広域活用取組について 【資料2-3】

5 閉 会

平成28年2月 伊那谷自治体会議 リニアバレー構想 策定 資料1-2

令和2年3月 伊那谷自治体会議 リニアバレー構想実現プラン基本方針 策定 資料1-3

令和6年3月19日 リニア開業に伴う新たな圏域形成に関する関係府省等会議
幹事会 長野県提案

リニアバレー構想実現プラン
基本方針の考え方を反映
し作成

令和6年3月27日 伊那谷自治体会議 関係府省等会議への長野県提案を共有 資料1-4
(施策の方向性を合意形成し、内容をブラッシュアップしながら進めていくことを確認)

令和6年9月9日 関係府省等会議 中間取りまとめ
長野県のビジョン（長野県駅（仮称）を中心に、伊那谷地域の強みをいかし、
一極集中から多極分散型国家のモデルとなる実証都市圏域の先行形成）が反映 資料1-5,6

⇒ リニアバレー構想の取組を振り返り、関係府省等会議へ提案した長野県の施策を含め、
伊那谷全体での今後の進め方を確認したい

長野県リニア活用基本構想 & リニアバレー構想

～ リニア中央新幹線が創る信州の未来！ ～

資料1-2

長野県リニア活用基本構想 ～地域特性に応じて3つの交流圏を設定～

交 流 圏	地 域
伊 那 谷 交 流 圏	上伊那・飯伊地域 (リニアを活かし、大都市・世界とつながる)
リニア3駅活用交流圏	諏訪・木曽・松本地域及び近隣地域 (鉄道・道路・空港による多様な移動手段を選択)
本州中央部広域交流圏	長野県全域 (2つの新幹線、道路網を基軸に本州中央部の流動を創出)

リニアバレー構想 ～伊那谷がめざす姿～

- I 国際空港へ1時間でアクセスするグローバル活動拠点
～世界とつながる～
- II 巨大災害時のバックアップと食料・エネルギーの新しい供給拠点
～日本を支える～
- III 高度な都市空間と大自然とが近接した「対流促進圏域」
～ここで豊かに暮らす～
- IV 世界から人を呼び込む感動フィールド
～ここでふれあう～

めざす姿を実現するための取組

I リニアを活かした産業振興

伊那谷交流圏

【グローバル活動拠点】

- 外資系企業等の中枢（本社・研究開発等）機能の立地
- 学術・研究機関が立地する“知”の集積地の確立
- 航空宇宙産業クラスターの形成
- 健康・医療・介護など健康長寿を支える産業集積



旧飯田工業高校

II 災害に強い地域づくり

伊那谷交流圏

【災害時のバックアップ・食料等の供給拠点】

- 企業の本社機能など都市機能の移転促進、居住地等整備
- 後方医療支援・災害活動拠点としての機能整備
- 農産物ブランド化、付加価値の高いアグリビジネス展開
- 木材の安定供給体制の構築、木質バイオマスの推進

III 信州暮らしの魅力向上

伊那谷交流圏

【移住定住・二地域居住の促進】

- 通勤・二地域居住ゾーンなど圏域内のゾーニングの検討
- 分譲地の整備、二地域居住に必要な環境整備・情報提供
- エコロジーに着目した生活スタイルの提案

【豊かに暮らすための地域づくり】

- 伝統文化の保存継承による郷土意識の醸成と担い手育成
- 郷土愛の醸成による新たな文化の創造
- 若者を惹きつける魅力ある地域づくり



千畳敷カール

【魅力ある自然環境の保全と景観の形成】

- 南・中央アルプスなど美しく雄大な自然環境の保全
- 看板デザインのルール化など調和のとれた景観形成

IV 広域観光の推進

伊那谷交流圏

【広域観光ルートづくり】

- 協議会を設置し、駅を拠点とした観光ルートづくり
- 交通事業者と連携した二次交通の確保・整備

【体験型観光の推進】

- 多様な体験ツーリズムの確立、ヘルスツーリズムの推進
- フィールドスタディの誘致
- 担い手の育成、効果的な情報発信



伊那市高遠地区

【外国人旅行者の誘客】

- 外国人旅行者向け観光ルートの形成、海外プロモーションの展開、観光情報の一元化・広域的連携

【豊かな自然と実績を活かした国際交流】

- グローバル人材の育成、自然や伝統芸能を活かした国際交流の推進

良好なアクセスの確保

伊那谷交流圏

- 高速道路へのアクセス性向上
- 高速道路と各地域の連携強化

資料2-3

- 駅周辺の広場・道路の整備、公共交通の路線再構築
- 乗換新駅設置など飯田線との利便性確保、飯田線の活性化

魅力ある駅空間の創造

伊那谷交流圏

資料2-2

- 駅舎デザイン、内装への県産材利用、特色ある植栽
- 駅構内への眺望施設整備、総合案内・物販施設等の設置
- 乗換えが円滑にできる駅前広場や駅周辺駐車場の整備
- 地域住民も利用できる賑わい施設の設置

山梨・岐阜県駅等との交流の拡大

3駅活用交流圏
本州中央部交流圏

- JR中央本線の利便性の向上、高速化・快適性の確保
- 山梨県駅と諏訪・松本地域を結ぶ高速バス路線の開設
- リニア利用者拡大に向けた連携、本州中央部広域交流圏構想に向けた検討会議の開催

伊那谷の「課題」と「可能性」

社会の変化

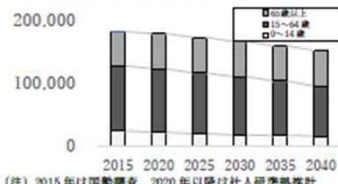
- 急激な人口減少・高齢化、首都圏への人口流出
- 生産年齢人口の減少
- Society5.0の実現で経済社会が大きく変貌（製造系雇用の減少、IT人材の不足）
- 世界経済に占める日本経済の地位低下
- 「物の豊かさ」から「心の豊かさ」への価値観の変化
- 求められる教育環境の変化

地域経済の課題

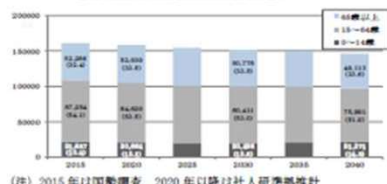
- 人口減少・流出。高齢化率が高く、地域の担い手が不足
- 豊かな自然環境が移住、観光誘客等に活かされていない
- 外国人旅行者数が少ない。日帰り観光が多く、一人当たり観光消費額が少ない
- 自家用車以外の移動手段が脆弱
- 国内外で、この地域の認知度が低い
- 全産業に占める情報通信業の割合が低い

域内人口の減少 地域の衰退 域内経済の縮小

【上伊那地域の人口推移】



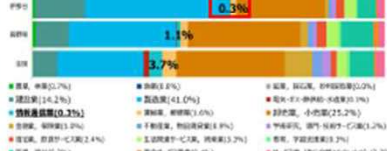
【南信州地域の人口推移】



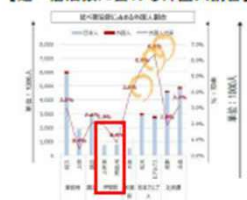
【リニア開業後の長野県駅への交通手段】
(伊那谷居住者の意向)



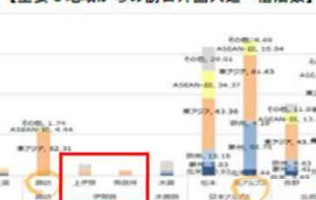
【産業大分類別に見た売上高（企業単位）の構成比】



【延べ宿泊数に占める外国人割合】



【主要6地域からの訪日外国人延べ宿泊数】



リニア開業に伴う今後の可能性

- 1 大都市圏と同一の交通圏
- 2 都市空間と自然環境空間が近接
- 3 リニア、高速道路、北陸新幹線で「本州中央部広域交流圏」を構築
- 4 国際空港、国際戦略港湾へ1時間でアクセス

- 新たなライフスタイルが実現することにより、移住・二地域居住が促進
- インバウンドを始めとする観光客が増加、観光消費額が増加
- 新たなヒトの流れが創出されることにより、産業・研究・人材育成等が促進

伊那谷地域の4つの可能性
(目指すべき方向性)

人口減少に負けない持続可能な地域をつくる

1 雄大なツインアルプスと天竜川が織りなすダイナミックな自然環境を活かす

2 良好な自然環境のもとで生活しながら大都市の利便性を享受できる立地を活かす
(東京は行くところ！伊那谷は住むところ！)

3 国際空港、三大都市圏等へのアクセスの良さを活かす
(国内外からヒト・カネを引き付ける)

4 リニアがもたらす新たなヒト・情報の流れを、産業・研究・人材育成等に活かす



伊那谷地域の戦略的チャレンジ(具体的な取組)

豊かな自然環境と地の利を活かした持続可能な地域づくり

- 1 伊那谷で暮らす魅力をつくり、定住人口を増やす
 - ① 景観形成、共通サイン整備【三風の会+南信州広域連合】 資料2-2
 - ② 広域二次交通の整備【行政+民間事業者】(県交通政策課・地域振興局で枠組みを構築)
 - ③ 移住定住・二地域居住のための住環境整備【市町村】
 - ④ 自然を活かした教育環境の充実【市町村】
 - ⑤ 将来を担う世代が地域企業を知り、郷就につながるキャリア教育の拡充【企業・経済団体+市町村+地域振興局】

- 2 国内外から人を惹きつける地域をつくる
 - ⑥ 周遊滞在型観光コンテンツづくり・受入環境整備【広域DMO+観光機構】
 - ⑦ アルプス等自然環境の活用【県環境部】
 - ⑧ 伝統文化の保存継承、活用【南信州広域連合】
 - ⑨ 国際交流・語学教育の推進【市町村】
 - ⑩ 広域二次交通の整備【行政+民間事業者】(再掲)(県交通政策課・地域振興局で枠組みを構築)

- 3 地域を支える産業の活性化
 - ⑪ グローバル経済圏で活動する企業のサテライトオフィス誘致や、フルリモートで勤務する社員の誘致(二拠点居住・移住促進)【県産業労働部・地域振興局+市町村】
 - ⑫ 大都市圏の研究機関や企業の本社機能などの移転促進【県産業労働部・地域振興局+市町村】
 - ⑬ 産・学・官・地域の人的交流の場(ナレッジスクエア)の形成【市町村】
 - ⑭ 地元産業の育成・高付加価値化【経済団体・市町村】
 - ⑮ 産業を支えるインフラ整備【県・市町村等】
 - ⑯ 農畜産業、食品産業等の活性化(アグリノベーション)【伊那谷アグリノベーション推進機構・JA・市町村】
 - ⑰ 将来を担う世代が地域企業を知り、郷就につながるキャリア教育の拡充【企業・経済団体+市町村+地域振興局】(再掲)

赤字：リニア開業に向けて、各機関が連携して喫緊に取り組むもの
黒字：既に取組が行われており、各機関において進めていくもの
※【】内は各取組の主体(事務局)となる機関

リニア開業に向けた長野県の提案

○重点提案 **伊那谷地域の特性・強みを活かした実証都市圏域の形成**

⇒リニア駅（伊那谷）を中心として、**一極集中から多極分散型国家のモデルとなる圏域を先行形成**する

- ① 「アクセスに優れた未利用空間、関連する施設や適地を活用」して「持続可能なゼロカーボン都市エリア」を構築し
- ② 長野県の強みを活かした近未来に必要な実証フィールドを提供し国際的なテストフィールドを目指すことで
- ③ 国際競争力に資するさまざまな新産業のインキュベーションに貢献し多極分散型の新たなモデルを目指すもの

○施策提案

【施策1】 **多極分散型のモデルとして長野県伊那谷地域に実証都市圏域を先行形成（重点提案）**

…上記のとおり

【施策2】 **広域的な交通体系の構築**

…本州中央部広域交流圏の形成、リニア関連道路の整備推進、公共交通、次世代モビリティなど

【施策3】 **次世代先端産業等へのチャレンジ**

…「エス・バード」を拠点とした次世代産業の創出、アクア・リジェネレーション(ARG)の推進など

【施策4】 **世界に選ばれる観光地域づくりと広域観光の推進**

…世界水準の山岳高原観光地づくり、サステナブルなインバウンド観光地づくりなど

【施策5】 **持続可能な環境先進地域づくり**

…木曽谷・伊那谷フォレストバレーの形成、再生可能エネルギーの創出支援など

【施策6】 **豊かな自然環境と独自の文化などを活用した教育・学びの先進地域づくり**

…特色ある総合学習の実践、大学のあるまちづくりの推進など

【施策7】 **新たな暮らし方働き方の先導モデルの形成**

…信州リゾートテレワーク・二地域居住の推進、女性・若者が働きやすい職場づくりの推進など

【施策8】 **市町村とともにリニア中間駅圏域のまちづくりを推進**

…リニアを見据えたまちづくりの推進、駅近郊グランドデザインの策定推進など

実現したいビジョン

- アルプスの眺望と大自然に囲まれた伊那谷地域に、長野県の強みをいかし、東京一極集中から多極分散型国家の実証モデルとなる都市圏域を先行形成することで、「広域中核地方圏」としての新たな価値の創造を実現する。
- これにより、リニア中央新幹線の開業効果として期待される人流等の活発化を実現することで、地域活性化を目指すとともに、近隣県とも連携し、開業効果を広く県下に拡大することにより、長野県の魅力向上につなげることとする。

長野県駅（仮称）を中心に、伊那谷地域の強みをいかし、一極集中から多極分散型国家のモデルとなる実証都市圏域の先行形成

実証モデル都市圏域の実現に向け、並行して以下の施策を展開

- 広域的な交通体系の構築
- 次世代先端産業等へのチャレンジ
- 世界に選ばれる観光地域づくりと広域観光の推進
- 持続可能な環境先進地域づくり
- 豊かな自然環境と独自の文化などを活用した教育・学びの先進地域づくり
- 新たな暮らし方・働き方の先導モデルの形成
- 市町村とともにリニア中間駅圏域のまちづくりを推進



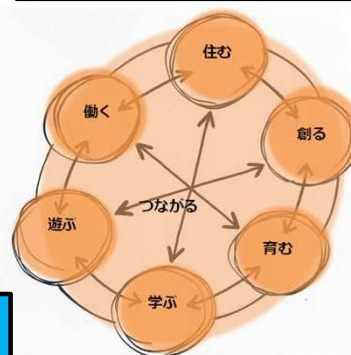
産業振興と人材育成の拠点 エス・パード



県産材を活用した木造建築



実証都市圏域形成後の
成果イメージ



リニア中央新幹線の
開業効果を県内外に波及



出典：林野庁HP

図：長野県作成

第2回リニア開業に伴う新たな圏域形成に関する関係府省等会議における 岸田総理発言(令和6年9月9日)

リニア中央新幹線は、東京・名古屋・大阪の三つの都市圏を日本中央回廊という一つの圏域に転換し、日本経済をけん引する国家プロジェクトです。

本日の中間取りまとめでは、リニア中間駅を始めとした新たな圏域形成に向けて、リニアによる新しい暮らしの風景、新たな広域観光モデル、次世代のビジネスフロンティア、新たな交通結節点など、リニア開業の効果を最大限にいかす方向性が示されていると思います。**4県共同による地域再生計画や、現在策定中の広域地方計画に反映して、その実現に向けて、国・地方連携して、速やかに取り組んでまいります。**

その際、日本中央回廊を構成する静岡県とも連携し、リニア新幹線と東海道新幹線のダブルネットワークを最大限に活用して、新たな広域圏形成を図ってください。

さらに、名古屋－大阪間についても、着実に整備を進める観点から、リニア中央新幹線三重・奈良・大阪建設促進連携会議に国土交通省とJR東海を正式なメンバーとして参画させたところです。品川駅から新大阪駅までの各リニア駅について、整備効果が最大限発揮されるよう、駅周辺を含めたまちづくりを、国として全面的に支援してまいります。

昨今の東海道新幹線の運休状況等を踏まえると、リニア新幹線は、日本の大動脈を支えるダブルネットワークとして、緊急性の高いプロジェクトです。早期整備に向けて、関係省庁、沿線自治体、事業主体が一丸となって、取り組んでください。よろしくお願いいたします。

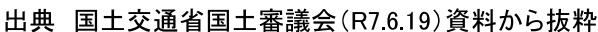


第2回リニア開業に伴う新たな圏域形成に関する関係府省等会議を
岸田内閣総理大臣、斉藤国土交通大臣出席のもと、開催

出典 首相官邸HP 総理の一日(令和6年9月9日)を元に加工した資料

参考資料(資料1-6関連)

＜プロジェクトイメージ例＞



ワーキングチームで、時間距離短縮効果・デジタル技術活用・地域資源を強みとした、「実証都市圏域※」形成のための施策を検討

※ ゼロカーボン都市エリア・国際的なテストフィールド・新産業のインキュベーション

■ 検討事項

長野県駅から10km 圏内の中山間地域に囲まれた未利用空間をはじめ関連する施設や適地を活用し、森林資源や再生可能エネルギーを活かした「ゼロカーボン都市エリア」を構築することで

関係する 中央省庁 や 国研究機関

(例えば、産総研や森林総研、JAXA)の一部機能や、
国研究機関各種実証プロジェクトを人材とともに
受入れる

■ ワーキングチーム推進体制

座長：リニア整備推進局長 構成員： 関係部局
オブザーバー： 関係市町村、経済団体、企業等

■ 今後の進め方

- ・伊那谷自治体会議（9／17） 共有
- ・推進本部 県決定（9／19）
- ・官民連携 ネットワーク立ち上げ

⇒ サウンディング型市場調査等によりビジョン策定

実証都市圏域イメージ



図 山梨県駅・長野県駅・岐阜県駅周辺におけるデジタル技術の活用のイメージ

出典：リニア中間駅(4駅)を中心とする地域活性化に関する検討委員会

ゼロカーボン都市エリア
イメージ



出典：季刊大林HP

長野県リニア中央新幹線地域振興推進本部

本部長：知事
副本部長：副知事
座長：リニア整備推進局長
本部員：関係部局長、関係地域振興局長（上伊那、南信州、木曽）

施策の進捗管理

連絡会議【要綱第5条】

座長：リニア整備推進局長
委員：関係主管課長、
地域振興局副局長

具体的な施策等を検討する推進体制を構築

「リニアを核とした多極分散型国家のモデル」検討ワーキングチーム【要綱第6条】

座長：リニア整備推進局長 構成員：関係部局 オブザーバー：関係市町村・経済団体・企業等

【重点提案】多極分散型モデルとして長野県伊那谷地域に実証都市圏域を先行形成

- ① リニアを活用した国家機能の多極分散の実現
- ② 大学等高等教育機関の分散化
- ③ GX・DX分野において国際水準の実証フィールドの提供への環境づくり（規制のサンドボックス化）
- ④ リニア周辺圏域への産業誘致の特例的な支援
- ⑤ 民間投資を呼び込むための先導プロジェクトへの支援
- ⑥ 自然災害等への防災体制強化への支援（国内最先端のAI・データ活用・国データプラットフォーム連携等）
- ⑦ 目指す姿の実現に向けた官民共同のフィジビリティ調査研究・計画策定への支援

協議

【当面のスケジュール】

- 9/19 推進本部でWT設置を決定
- 10月 **社会実装を目指すテーマ検討**（副本部長・座長・①～⑦各関係部局担当課）→
- 11月 優先テーマ選定・WT構成員の招集・プロジェクト検討開始
- 年度内 社会実装に向けたプロジェクトの決定
- 翌年度～プロジェクト実施

企画振興部
総務部
県民文化部
環境部
産業労働部
林務部
建設部
企業局

リニアの開業効果を県内に広域的に波及させていくため、駅高架下空間の利活用、リニア駅アクセスの検討、駅舎デザインなどの検討を市町村・関係機関と連携して進めていく。

■リニア駅アクセスの検討(広域的二次交通)

・リニア駅の広域的な二次交通を確保するために、**地域間移動の人流を分析**するなど、**リニア駅と県内主要都市や観光地へのアクセスについての検討**を進める

・リニア駅アクセスの**新たなモビリティ実現可能性についての検討**を進める

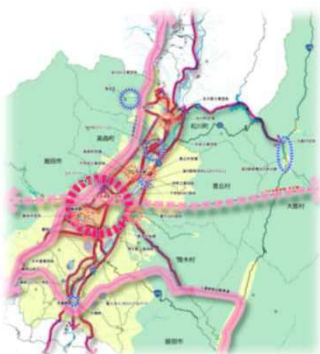
引き続き、リニア駅アクセス検討会議で広域的な見地からの検討を進め、伊那谷自治体会議に報告

戦略的C②

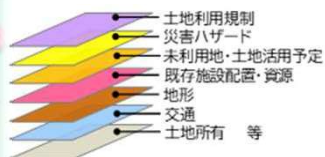
■リニア駅近郊土地利活用

・リニア長野県駅(仮称)近郊の将来的な土地利用について、市町村と連携して民間企業との対話による**サウンディング型市場調査を実施**し、企業、研究機関、省庁等誘致の可能性、開発する上での課題、様々なアイデアや各種条件等の整理を行う

・調査により得られた知見を伊那谷に拡大



戦略的C⑩⑪⑫



※出典:長野県作成資料



■リニア長野県駅(仮称)の駅舎デザイン

・飯田市が整備する駅前広場との調和を図りながら、**広域的な観点から、長野県の南の玄関口としてふさわしい施設**となるよう、駅舎デザインについて飯田市と連携し、JR東海への要望・調整を図る

戦略的C①

長野県駅(仮称)のイメージ図【外観】

南門に臨み、山梨県と長野県を結ぶ



出典:JR東海資料※



出典:飯田・リニア駅前空間デザインノート※

※上記の駅舎の形状・デザインは、現段階で決定しているものではなく、協議・検討のためのイメージ図です。

■リニア駅高架下空間の利活用

・伊那谷の観光情報や交通情報のほか、**幅広くサービスを提供するための高架下空間**とするために、周辺市町村や関係機関が広く参画できるよう、飯田市と共同事務局のもと、機能と施設配置について検討を進める

引き続き、リニア駅前広場活用検討会議で広域的な見地からの検討を進め、伊那谷自治体会議に報告

戦略的C⑥



※出典:飯田・リニア駅前空間デザインノート

